

スカウト おおいた

第38号

2014年 1月 1日 発行

日本ボーイスカウト大分県連盟

編集 県連総務委員会

ご挨拶

公益社団法人 日本ボーイスカウト大分県連盟
理事長 戸高有基

平成26年の年頭に当りご挨拶を申し上げます。

昨年中は、スカウト運動へのご支援を賜り厚く御礼申し上げます。スカウトならびに指導者の皆様には、充実した一年であった事と思います。特に、山口県きらら浜で開催された第16回日本・第30回アジアジャンボリーには県連盟より2隊約100名の派遣ができました。猛暑や一時的な豪雨の中での大会となりましたが、事故もなく参加スカウト達は貴重な体験をされた事と思います。これも日頃の研鑽の積み重ねと大会に向けた事前訓練がしっかり行われたからであると思います。

また、富士章・隼章・菊章とスカウト諸君の進級へのチャレンジやベンチャー・ローバー訓練、各種指導者養成訓



練にも多くの指導者の皆様に参加頂き、これからの県連盟と各団の発展に弾みがついた年でもありました。

本年は、第9回九州キャンボリーが熊本県南阿蘇で開催されます。また、来る27年には23回世界ジャンボリーがきらら浜で開催されます。それぞれの大会に多くのスカウト達が参加を希望されていますが、県連盟としても一人でも多くのスカウトが参加できるように準備と支援をしております。各団には、スカウトの技能の向上に努めて戴きますようお願い致します。

スカウト活動の原点は、パトロールシステムにあると考えます。班活動を通じて、それぞれの役割や技能の向上が図れます。少子化の進む中で、ビーバー隊からローバー隊までを編成する標準団を維持するのは厳しい事と思えます。それぞれの地域・団の実情に応じた形での隊編成になるかと思いますが、他団との連携などで行事・プログラムを考え、スカウトの育成に努めて戴きますようお願い申し上げます。

県連盟は、一昨年より公益社団法人としての認可を受け活動していますが、賛助会員の皆様を始め各団育成会・保護者の皆様には、これまで同様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

スカウトと共に成長発展を目指そう

ボーイスカウト大分県連盟コミッショナー
内田 日出男

あけましておめでとうございます。皆様には、輝かしい新年をお迎えのことと思います。本年も、ボーイスカウト大分県連盟の活動にご支援ご協力をいただき共にボーイスカウト運動の発展に取り組んで行きたいと思えます。

さて、私たち大分県連盟は、昨年、公益社団法人として新たなスカウト運動をスタートさせました。年間を通しての初年度の取り組みを継続中です。私たちは、その使命である本運動に加盟するスカウトの健全育成に尽力する他、社会に貢献する教育運動・活動として、より多くの人々に参加を呼びかけ、社会へ有益な青年を輩出するための実践活動を展開中ですが、新年にあたり新たな気持ちで継続展開をしていきたいと思えます。

年間の目標は、一 社会から評価されるスカウトの育成、二 青少年スカウトを確保する、三 指導者の資質の向上をはかる、四 当年度予算・決算において収支相償の健全財政を堅持するための施策を推進するですが、達成できていますか？もう少しの場合は、残された期間



で達成できるように取り組みましょう。

目標達成の原点は、日常活動の充実です。

そのために、指導者は資質の向上をはかることが必要で、年に一回以上定型訓練・定形外訓練・研修会等に

参加することをお願いしています。そして、その成果をスカウトに還元していただくことを願っています。

昨年、16NJに多くのスカウトが参加できました。本年は、9KCです。同じく多くのスカウトに参加して貰いたいと思えます。そして、23WSJに繋げたいものです。そのためには、スカウト全員が参加のための資格をクリアできるよう満身努力するとともに、指導者には、その支援指導を確実に行っていただくようお願いいたします。

スカウティングは、スカウトとなる「青少年だけ」が何かに挑戦する活動ではなく、「隊」という一つのチームの中で世代を超えて活動する、指導者自身にとっての挑戦でもあるとも言われています。スカウトと共に成長発展を目指していきましょう。

弥栄

野営法研究会

雨の日こそ、スカウト技能が試される！

平成25年9月1日(日)大分市柞原八幡神社において、大分県連盟の野営法研究会が開催されました。内容は食堂フライ、A型テントの設営と、保存の効く食材での野外料理でした。朝からひどい雨模様でしたが、中々体験できない雨天時の設営・撤営の仕方、班員の役割分担等を体得でき、21名の参加者・スタッフは笑顔で積極的に研鑽に励みました。



安全管理講習会

危機感を持って安全に対し準備し、冒険を青少年に提供しよう。



平成25年9月22日(日)、大分市西部公民館で、安全管理講習会が開催されました。パシフィックセキュリティ(株)代表取締役、ボーイスカウト大分第1団の但馬副団委員長より、警備や安全教

育の専門家としての話や、自身がシニアスカウト(現在のベンチャー)時代に行った無人島キャンプのエピソードなどの講和を頂きました。その後、「今私たちがしなければならない安全管理」としてグループ討議、発表が行われました。



WB 研修所 VS 課程



ウッドバッジ研修所ベンチャースカウト課程九州沖縄第3期が、平成25年10月12日~14日2泊3日の日程で開催されました。津久見市戸高育英会館に参加者17名(内大分県指導者12名)県内外スタッフ・支援者14名が集結し、

ベンチャースカウト隊指導者の為の研修を行いました。高度の野営技能、本物の冒険に臨む青少年へのアプローチ、安全対策等熱心な研修が行われました。

スカウトフォーラム

本年度の大分県連盟は、9月8日(日)に高校生年代16名、中学生年代12名、指導者21名という多くの参加を頂き、大分コンパルホールで開催されました。

① 環境被害や自然災害に備える。② 第23回世界スカウトジャンボリー③ スカウティングとテクノロジー④ ちかいとおきて・・・という4項目をテーマにグループ討議に取り組みました。

開会に先立ち、今年の夏に開催された「第16回日本ジャンボリー」の期間中に行われた8月6日の広島平和記念式典に県代表として参加した中津8団一稲垣佳那子さんより、式典へ参加して感じた平和の大切さ、いっしょに参加したスカウトとの交流を通して気づいたことなどをみなさんへ熱く語って頂きました。

続いてグループ討議へと進みましたが、今回は第16回日本ジャンボリーへ参加したスカウトも多く、1ヶ月ぶりの再会と言うこともあり、各グループとも活発な討議が進められました。フォーラム終了後に指導者で代表選考した結果、25年度日韓フォーラムへの大分県代表スカウトには、大分9団一後藤雄一朗さんに決定しました。

(なお、中学生年代の県代表も決定していたのですが、今年度より日韓フォーラム縮小のため高校生年代だけのフォーラムとなりました。せっかく選考されていた方々へは大変ご迷惑をおかけしました。)

大分県連盟では、グループ討議形式でのフォーラムを進めてきて数年が経過しました。

回を重ねるごとに記録や司会の役割分担や個々の発言・まとめなども少しずつ身についてきており、積み重ねていくことでスカウトのコミュニケーション力を高めていけると確信しています。

スカウト技能とともに自己発信力を高め、2年後に迫った第23回世界スカウトジャンボリーへ向けて、アピールできる輝いたスカウトをめざしてほしいと思います。

スカウト展

大分市の生活文化展の中で大分県青少年フェスタが開催されました。ボーイスカウトの担当は10月13日で大分市城址公園の中のブースを借りて行いました。ブースの中では16NJ関係の写真34枚のパネルを展示し、非常時の調理道具としてダンボールオープンの実演をしました。見学に来てくれた大分2団・5団のスカウトと一般の子供も達にピザトーストを試食してもらい好評でした。

カブ・ビーバー フェスティバル

県下のビーバースカウトとカブスカウトが集まる集会、カブビーバーフェスティバルが11月17日に大分市内の松原緑地で行われました。

今回のテーマは東京オリンピック開催ということで「めざせメダリスト」、スポーツに関わるプログラムに挑戦してもらいました。

カブスカウト74人、ビーバースカウト30人の104人の参加となりました。

普段交流のない団のスカウトと活動できる数少ない機会となります。毎年行われる予定なので次回も是非参加をお願いします。

平成25年度 菊章 隼章 交付

菊章

齊藤 俊大 大分9団
壺内 総太 大分9団



隼章

後藤 雄一朗 大分9団



平成25年度に
菊章・隼章を取得
された方々です。
誠におめでとう
ございます。

各 団 活 動

中津第8団

9月1日は防災の日、9日は救急の日。全国でこれらに関わる様々な取り組みが行われている中、中津市のダイハツ九州アリーナでは9月8日の日曜日に「2013年消防救急フェア」が開かれ中津第8団も参加しました。体育館内では、見る・体験の救急。屋外の広場では体験型の防災が催されました。私たち8団も小スペースでしたがブースが割り当てられましたので、ボーイ隊が立ちカマドを展示するなどをしてスカウト活動のPRにも努めました。スカウト達は屋外に置かれた消防車の乗車、九州には熊本市に一台しか無い特殊医療救護車への乗車、患者搬送に使われている大分県のヘリコプターにも乗ってみました。さらに写真のように耐熱防水の雨合羽を着たビーバースカウトは消防士に支えてもらいながら放水も全員で体験しました。とても頼もしい消防士や消防団のおじさんたちは日ごろから厳しい訓練を積み重ねて、多くの人々の大切な生命や財産を守ってくださっていることを学んだ一日でした。



杵築第1団

6月、野外調理～初めてのうどん作り。
自分で作ったうどんはとても美味しかったみたいです。
7月、清掃奉仕～カブトガニ産卵場を守れ！
毎年必ず参加している杵築第1団恒例の奉仕活動です。

9月、スカウトの日～八坂川を守れ！

杵築第1回は、ポイ捨ての多い地区を清掃ハイキング。どんどん増えるゴミ袋にスカウトも困惑。

10月、清掃奉仕～まちピカ運動に初参加。

参加者の多さにビックリ。今年は清掃奉仕が多かったですね。それだけゴミ問題が進んでいるのでしょうか？

11月、カブ・ビーバーディ
杵築第1団にとって、年に1度、多くのスカウトと触れ合える貴重な機会です。



これからもスカウト活動ガンバルゾ！！

別府第9団

別府第9団のモットーである「団家族」は、保護者会が主流である「育成会」として指導陣とともに、団運営の両輪としての活動は高く評価できる。集会訓練・諸行事の支援は指導陣にあって有り難く欠かすことのできないところであり、家庭においてもスカウトとの共通話題がもて、平素において指導者とのコミュニケーションを図れるなどの理解が深まり、大きな絆が出来ている。

その一端として今期写真のようなTシャツ作製しての輪・話・話作りを更に大きく実現した。ただし、集団として常に右向け右でなく、背中に「君子不同而和」の文字を入れ、集団の協力の中にも自己の確立を図ることを強調している。



由布第1団

10月20日、由布第2団は、市内の陣屋の村で体験見学会を行いました。ビーバー・カブ・ボーイ各隊が同じ場所で、それぞれ集会を行いました。6組の見学者の方が参加。指導者だけではなく、保護者もビーバー隊の工作、おやつやサモアなどの手伝いで大活躍。カブ隊のポイントでは妖精に扮して熱演してくれた保護者も。

ボーイ隊のスカウトも、ビーバー・カブ年代の子ども達にカッコイイ姿を見せてくれ見学者だけでなくスカウトたちにも、有意義な体験会となりました。また、由布第2団のチームワークの良さを実感した1日でした。



大分第2団

9月16日のスカウトの日に合わせて、入隊・上進式を行いました。

今年は天候に恵まれ屋外で開催しました。当日は団全員、保護者を入れて記念撮影を行いました。現在当団はBVSからVSまで約50名弱で活動をしています。全員揃うと「多いなー」と改めて思いました。

夕方から入隊・上進式を行いました。当団はリーダー数が少ないので毎年一人何役も係を兼務します。今年も、保護者の皆様のおかげで多くの新入隊者を迎え無事終了しました。

発足から53年を経て、54年目へ向け全員で「明るく、楽しく、元気よく」活動をしていきます。



大分第5団

バンチャー隊、自然と地球環境プロジェクトに取り組む。

大分市横尾の里山（うーたの里）で環境保全活動を展開している、うーたの会の作業奉仕体験で数々の自然の学びを経験。沼の生き物が住みやすいように泥を掻き出す作業（ピオトープ作業）。雑草をとり、山林で木を伐り体験。かもその川の石拾い作業。古い橋を除去し新しい木材で橋を架ける作業 ピオトープ拡張作業。



里山再生のために尽力。地元の方、中高校生と協力、自然や人々との交流を通して多くの体験が僕を成長させた。今まで他人事としか思っ

ていなかった『自然を大切に』という思いが強くなった。体験で得たことを大切に、今よりもっと環境保全研究、再生作業、ボランティア活動を通じて学び続けていこうと思います。

(バンチャー隊 内田涼太)

大分第9団

今回はバンチャー隊の紹介をします。

バンチャー隊は今、来年3月に実施するナイトハイクの計画を行っています。ボーイ隊の皆さんの思い出に残るようなハイクになるよう試行錯誤しています。

また、隊集会にてアルミ缶を使ったオイルストーブを作成しました。キャンプや登山の時にガスバーナーが無くて、これと燃料用アルコール少量さえあればお湯を沸かしてコーヒーを飲んだり、スープを作る事が出来ます！

今後もいろいろな分野に挑戦してスカウト活動をエンジョイしたいと思います。

(バンチャー隊 小林 佑太郎)



津久見第1団

第16回日本ジャンボリーに参加した台湾スカウト15名が8月8日～10日の日程で津久見にホームステイに来てくれました。

情報が少なく受入の不安もありましたが、言葉が思うように伝わらなくても、気持は伝わるもの、リーダーの奥様も通訳としてサポートしてくれました。

期間中は、戸高育英会館に宿泊し、イルカ島の見学や四浦半島のクルージング、海水浴を楽しんだり、団スカウトとの交流パーティーでは、ゲームやダンスの出し物で盛り上がりました。

2泊3日の交流の中で、楽しい雰囲気や、みんなの笑顔で一体感が生まれ、心の距離もぐっと近く感じました。最後は、第9回九州沖縄野営大会での再会を約束してお別れしました。



お詫び

第37号16NJ特集号の派遣隊長記事にて「真田隊長」と「得丸隊長」の写真を取り違えて掲載いたしました。誠に申し訳なく、深くお詫びを申し上げます。

※ホームページにアップしたのものについては修正しています。